



いけだ 議会だより

No.135

令和4年7月27日発行

中信地区コンクールを目指し 日々練習に励む 高瀬中学校吹奏楽部



6月定例会

- 令和4年度一般会計補正予算の目玉事業2p~3p
8 議員が町政を問う(一般質問) 7p~13p
町民の皆さんに聞く(帯刀益夫さん) 14p



議会だよりをスマホで読む！
「1」で読み取ることもできます

一般会計補正予算

助成金を用い 感染防止、農林業・文化・ 活性化に役立つ補正予算 2,834万円を可決

地域資源 再発見・発信 事業委託料

236万円

県の地域発元気づくり支援金を活用し、浅原六郎の生い立ちや業績、童謡「てるてる坊主」などの映像コンテンツを作成し、浅原六郎や童謡価値の再発見及び池田町の情報発信に役立てる。

財源

県補助金	131万円
町一般財源	105万円



池田町が生んだ文学者
浅原六郎

消防団防災事業

152万円

消防団員が火事出動の際、靴の底に金具が入っている長靴を履くことで釘による踏み抜き防止を図る。

財源

コミュニティ助成事業助成金	100万円
町一般財源	52万円



釘踏み抜き防止長靴

スポーツ 活性化事業

95万円

松本山雅に依頼して幼児・大人などの運動プログラムを作成し、運動教室を開催する。

財源

公共スポーツ活性化助成金	93万円
町一般財源	2万円



国・県・諸団体の補助金・ 町民福祉・コロナ スポーツ

● 6月定例会の概要

6月定例会は6月7日から17日まで開かれ、承認6件、議案3件を審議し、いずれも承認・可決しました。また、陳情2件を審査し、いずれも採択し関係機関などに意見書を送りました。

主な目玉事業

子育て世帯 生活支援 特別給付金事業 445万円

県補助金を活用し、低所得の子育て世帯に対して子ども1人当たり5万円を給付する。

【財源】

県補助金 445万円



新型コロナウイルス ワクチン追加接種 事業 414万円

コロナの蔓延防止を図るため4回目接種を7月6日から行う。今回、18歳から59歳で基礎疾患のない方の接種は自主申告になります。

【財源】

国補助金 414万円



農業振興事業 348万円

県の交付金を用い、水稻育苗ビニールハウス2棟の建設費を補助する。また、水田転作を進めるため大豆播種機購入費の1/2を補助する。

【財源】

県交付金 300万円

県補助金 48万円



大豆播種機イメージ

ここが
聞きたい

予算審査

質疑

◎新型コロナワクチン追加ワクチン接種事業について

問 今回は、18歳・59歳で基礎疾患のない方のワクチン接種は自主申告になる。

答 周知をどのように行うか。

問 広報、町のホームページ、防災無線で周知する。

問 ワクチン接種でのモデルナ社、ファイザー社の接種割合は。

答 5・5である。どちらのワクチンでも効果が認められている。希望するワクチンを接種することも可能である。

問 子ども（5歳・11歳）のワクチン接種率は。

答 当町の子どもの接種率は39%である（全国平均は20%未満）。

◎消防団員の士気高揚について

問 コロナ禍でポンプ操法大会が開かれないうえに消防団員の士気高揚をどのように図るか。

答 県のガイドラインにより分団単位で最低ノルマを示し活動いただいている。

◎地域資源再発見・発信事業委託料について

問 事業内容とねらいは。

答 池田学問所の伝統や浅原六朗の故郷池田町を思う気持ちを伝えたい。また、童謡「てるてる坊主」を通じて童謡の価値再発見につなげたい。

問 DVDは制作するのか。

答 DVDを制作し、テレビ放映とともに小中学校の地域学習につなげたい。講演会も行う。

問 テレビ放映したものは文化財資料館で鑑賞できるようにしたい。講演会の講師の考えは。

答 資料館や「てるてる坊主の館」で放映する。県内講師を予定している。

問 テレビ放映は何時になるのか。

答 秋以降になると思う。

問 てるてる坊主童謡祭りの考えは。

答 今年度の童謡祭りはコロナ感染防止により中止とした。代わりに映像で歌唱動画の応募を企画し、WEBや交流センターなどで放映したいと考えている。

◎森林整備委託料について

問 整備内容は。

答 鶴山地区の緩衝帯整備と枯れた木の処理を行う。

問 今後の森林整備事業の進め方は。

答 森林整備計画に基づき緩衝帯整備と危険木の伐採を地権者と確認しながら行う。

問 千本木地区の松枯れ木がひどい。地域の人も対策を求めている。町の対応は。

答 個人所有の森林であるが、墓地や住宅に危険が及ぶ場合は伐採している。砂防事業急傾斜地の事業としても取り組んでいく。



てるてる坊主の館
(浅原六朗文学記念館)

◎公共スポーツ活性化助成事業について

問 事業内容は。

答 松本山雅FCなどの協力を得て、幼児と親子のフィットネス、サッカークリニック、大人向けの運動プログラム、指導者向けプログラムなど全8教室26回開催を予定している。



松本山雅親子サッカー教室

◎信州農業生産力強化対策事業補助金について

- 事業費 48万円
- 財源 県補助金

問 事業内容は。

答 大豆の種まきと土かぶせを行う播種機購入費の半額を補助する。

問 大豆生産の方向性は。

答 大豆は国庫補助金をもらいながら耕作できる。米の転作が進むなかで有効な生産品目と考えている。

本会議質疑・討論

承認 「池田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例」の質疑・討論

内容：国の法令改正により国保税の課税限度額を下記のように引き上げる

- ・医療分(基礎課税分) 63万円から65万円に引き上げる
- ・医療分(後期高齢者支援金等課税分) 19万円から20万円に引き上げる

(質疑 服部久子 議員)

問 今回の改正で限度額を超過する世帯はどの位減るのか。税収はどうなるのか。

答 限度額を超過する世帯は後期高齢者支援金分の2世帯である。町の税収は24万円増える(令和3年度の課税状況で算出する)。

反対です

服部久子議員

中間層の税負担が多くなるので反対する。

議案 教育長の勤務時間、休暇等及び職務専念義務の特例に関する条例

- 内容
- ・教育長の勤務時間、休日、休暇などは町職員に準ずる。
 - ・教育長が研修を受ける場合は職務に専念する義務を免除される。

賛成です

矢口 稔議員

- 本条例は本年3月定例会の私の一般質問で提案したものである。迅速に条例制定に取り組んでいただいたことに感謝する。
- 昨今の教育環境はICT技術の進化により目まぐるしく変化している。それに対応していくには常に学び続けることが求められる。教育委員会のトップである教育長が先頭に立ってより良い方向に導いていただけることを願い賛成討論とする。

陳情

「水田の直接支払い交付金の見直しに関する陳情」

薄井孝彦議員

賛成です

- 本陳情は国が転作田を今年から5年間に一度も水稲作付をしない水田は直接支払い交付金を支給しないと見直しの撤回を求めるものである。
 - 交付金が支給されないと転作物栽培の採算がとれなくなり耕作放棄地が増え、池田町の田園風景の良さが失われる。
 - 米価が下落し、農業資材が高騰するなかで農家経営を厳しくする交付金の見直しはすべきでない。
- 以上の理由により陳情に賛成する。

陳情

「再審制度の速やかな改正を求める陳情」

服部久子議員

賛成です

- 本陳情はあとを断たない冤罪をなくすため再審に明確なルールを定めることなどを求めたものである。
- 再審法の改正は被害者や日本弁護士連合会が先頭に立って求めている。再審では証拠開示の法的規制がなく、検察が21年間も証拠を隠し続けた例もあり、冤罪の一因となっている。冤罪被害者を出さないために再審法の改正は必要と考え陳情に賛成する。



主な議案の説明と 審査結果

6月定例会
提出案件

○…賛成 ●…反対

		審査結果	松野亮子	大厩美秋	中山 眞	横澤はま	矢口 稔	大出美晴	薄井孝彦	服部久子	和澤忠志	那須博天	倉科栄司	矢口新平
承認	税条例等の一部を改正する条例の制定について (国の法令改正にともなう条例の一部改正)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—
	国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について (国の法令改正にともなう条例の一部改正)	承認	○	○	○	○	○	○	●	●	—	—	○	—
	令和3年度一般会計補正予算(第10号)について (事業費確定にともなう補正)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—
	令和3年度国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について (事業費確定にともなう補正)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—
	令和3年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について (事業費確定にともなう補正)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—
	令和3年度簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)について (事業費確定にともなう補正)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—
議案	教育長の勤務時間、休日等及び職務専念義務の特例に関する条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	○	—
	令和4年度一般会計補正予算(第1号)について	可決	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	○	—
	令和4年度一般会計補正予算(第2号)について (子育て生活支援特別給付金事業)	可決	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	○	—
陳情	水田活用の直接支払交付金の見直しに関する陳情	採択	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	○	—
	「無実である国民が、犯罪者とされ処罰されている」現実を「命と人権、人間の尊厳にふさわしい法律」にするための、「再審法改正を求める意見書」の議会議決をお願いする陳情書	採択	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	○	—
発議	再審制度の速やかな改正を求める意見書について	可決	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	○	—
	水田活用の直接支払交付金の見直しについて白紙化を求める意見書について	可決	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	○	—

※矢口議長は表決には加わりません。 ※和澤議員、那須議員は療養のため欠席です。 ※大出議員は初日のみ出席です。

〈表紙〉

創立 70 周年を迎えた高瀬中学校。そのなかで吹奏楽部は昭和 39 年にブラスバンドとして発足、今年で 58 年を迎えています。21 名の部員が新型コロナウイルス対策に留意しながら 7 月の中信地区コンクールを目指し頑張っています。



8 議員が町政を問う

一般質問は、議員の日常活動と調査・研究、町民の声や自身の考え方をもとに、町長や教育長などの方針を問うものです。

ここが聞きたい
8人が一般質問を行いました

質問者	質問事項
中山 眞 議員	・ ICT を活用した効果的学習活動の GIGA スクール構想の進捗と今後の展開について ・ ICT サポーターと ICT 支援員、地域おこし協力隊員との連携について
大厩美秋 議員	・ GIGA スクール構想による児童生徒一人 1 台端末の活用状況と今後について ・ 自治会と行政との関わりについて
横澤はま 議員	・ 未来を切り拓くたくましい子どもが育つ町づくり ・ 池田町の文化芸術は地域で守る 町立美術館の未来
松野亮子 議員	・ ゲノム編集トマト苗の小学校での配布について ・ 地域おこし協力隊員の採用について
薄井孝彦 議員	・ 民間会社による社口原開発計画についての町の考えは また、社口原の農業振興策は ・ 地区防災計画の作成に町の指導と支援を また、長野県に高瀬川氾濫危険予測情報を発表するよう町から要請を ・ 自治会未加入者対策について町の調査と支援を
服部久子 議員	・ 子どもの生活実態把握の取り組みを聞く ・ 子どもの医療費の窓口完全無料化を ・ 補聴器購入の補助を ・ 旧教育会館と池田北保育園跡地の活用を
矢口 稔 議員	・ 公共施設のオンライン予約システム導入を ・ 緊急的な農業の担い手確保及び農地の保全について ・ 情報発信の目的と情報を受け止め活用する仕組みづくりを
倉科栄司 議員	・ 中学校における部活動の今後の見通しと対策について ・ 当町におけるヤングケアラーの実態は



町のGIGAスクール構
想の進捗状況と、小中一
貫の効果的構想確立を
中山 眞 議員

問

約一年経った現在のICT学習の実態は。

答

中学校の多くの授業で取り入れている。一人ひとりのタブレットと大型電子黒板で内容を共有し、生徒個々の表などに有効活用している。また、小学校でも授業で活用される頻度も増えている。

クラウド活用の家庭学習の実態は

問

夏休み等の活用計画は。また、保護者の方たちとの連絡網の活用は。

答

反転学習（事前に家庭で教材動画を見て、学校でグループワークなどの意見発表に活用）を取り入れたり、家庭支援ソフト「eライブラリ」を活用している事例がある。夏休み期間は小学校高学年、中学校で試験的持ち帰りを実施している。

問

GIGAスクールが進む中で前例にとられない、今の学校現場に即した適材適所のハードウェア設置計画を立てる必要があるのでは。

答

言われる通り一人ひとりの端末導入で、パソコン教室等の機材は使われなくなった。今後GIGAスクール構想の推進を計画的に行い、それに合わせた機器導



自治会と行政の関
りについて
大塚 美秋 議員

問

自治会要請について令和4年度分は7月に分かるが過去の要請の把握と改善状況は。

答

昨年度までの未実施となっている自治会要請は約100件である。予算状況や要請回数、重要度などを考慮し対応している。予算面で実施できていない要請は多分にある。また、行政だけでは対応できない要請もある。

問

自治会要請で何年も未実施となっている現状を町長はどう捉え改善して行くのか。

答

予算の許す限り対応したいと考えているが、未実施の解消をしていくために重要度を精査し追加予算で対応したい。

問

自治会未加入者の増加は各地区で深刻な問題となっている。自治会役員による加入促進活動をし易くするために自治会加入促進マニュアルの作成を提案する。

答

転入される方へは自治会加入依頼の手ラシに自治会長の連絡先を記載して渡している。マニュアルについては内容等を研究し検討したい。



未来を切り拓くたく
ましい子どもが育つ
まちづくりについて
横澤はま 議員

問

教育長が取り組みたいと考えている「子どもの主体性を大切にしたい体制づくり」とは。

答

学校長の示す経営ビジョンの下、授業改善に取り組んでいるが、教育委員会として保小中合同研修会や外部講師の招聘等を通じ積極的に授業づくりに取り組んでいく。また、不適応や不登校児童生徒に対する手立てを強化し学びの機会を確保するために、子どもの居場所の体制づくりや実態を丁寧に把握しながら必要な手立てを講じていきたい。

問

地域とともに学校づくりの推進に向けたコミュニティ・スクールの充実はどう図っていくか。

答

今までのノウハウを活かしながら「学校を核とした地域づくり」を目的とした地域学校協働活動を進め、よりよい学校づくり・地域づくりを図っていく。各学校ごとに学識経験者、地域コーディネーターを中心に12名の構成で進める。保護者や地域への周知や学校園ボランティアの募集は三学期以降に予定している。

問

地域と子どもがつながる「第3の居場所」の設置や放課後デイサービス

入を図っていききたい。

問 中学校最終年度のICT習得目標を設定し、池田町独自の小・中一貫の構想を構築していく。その後の高校等の教育課程で、学校間、自治体間格差を生じさせない構想を確立していく必要があるのではないかと考えています。

答 教育委員会として学校現場と協調しながら今後確立していきたい。

問 GIGAスクール構想等のICT教育において、教育現場と教育委員会のつながりをどうとらえているのか。

答 お互いの連携を強めていきたい。特に大事な情報は情報共有を図ることでICT支援員を含めた「GIGAスクール運営会議」を数回開催し、地域おこし協力隊員の方にも加わっていただきアドバイスを受けている。

問 ICT支援員の方の活動内容は、また、池田町全体のDX推進にも取り組んでいってもらいたい。

答 支援員は教員免許を持ちICT関連にも強く、教師の目線とICT教育の目線の両立ができる方である。学校現場ではわかりやすいと評価を頂いている。また、町民のリーディング向上を目的とした地域おこし協力隊員によるDX推進に力を入れていく予定である。



GIGAスクール



児童生徒一人1台端末の活用状況と今後について

問 一人1台端末の活用にあたり健康・安全面において児童生徒、保護者の理解を得ることができているか。

答 利用開始に先駆けて保護者と「利用に関する同意書」で同意を得て利用開始しているが、まだ理解されていない保護者、児童生徒はいる。継続して注意すべきことを認識してもらって対応策を検討する。

問 児童生徒、教職員、保護者など関係する人たちがGIGAスクール構想を理解し、各自目標とする過程を明確にするためにガイドラインの作成を提案する。

答 教職員のスキル向上、児童生徒に目標となる指標を設定するなど共有し、体系を示すことが必要と考える。できるだけ早い段階で県のガイドラインに準じて作成に着手していく。



自治会のいいとこ！
もう一回考えましょう！



の対応に旧教育会館の考えは。

答 「第3の居場所」設置は原則的に民間による運営が主で、教育会館の活用は改修経費が膨大で断念した経緯がある。放課後デイサービスの対応は十分ではない。旧教育会館を含め今後の課題としていく。

池田の文化芸術は地域の手で守る
町立美術館の未来は

問 美術館運営の施策によって、経常経費削減につながり目的達成の方向性が明確化された答申に対し、町長の方針は。

答 町はクラフトパーク全体を一体化した管理について検討を始めた。そのことが一層の魅力づくりと経費削減に繋がるものと考えている。

問 美術館施設の利活用について町民の声を広く聞き取り反映されるよう検討組織の立ち上げを。

答 他の用途には大規模な改修が必要と思われる。公共的な施設としての用途は見い出せていない。改めて検討組織の立ち上げは考えていない。



方向性を明確にすることが
求められている町立美術館





松野亮子 議員

小学校でのゲノム編集トマトの苗配布について

問

国が食品表示の改悪を進めている。遺伝子組み換え食品の表示も今よりもさらに消費者に分かりにくいものに変更された。更に、ゲノム編集食品の第1号であるゲノム編集トマトの流通も2020年12月より国が認めた。

厚労省は安全審査も行わず、ゲノム編集であることの表示も義務付けていない。このトマトの開発企業は安全性を確認したと言っているが、全ゲノムの解析もせず実際にゲノム編集トマトを食べた場合の長期影響調査も行っていない。この企業は安全性が確認されていないゲノム編集トマトの苗を来年度小学校に配布することを計画している。「受け取らない」ことを明言している自治体もある。

来年度以降、ゲノム編集トマトの苗の無償提供があった場合の町の対応を問う。

答

学校において安全性が確保されなければならぬことは当然である。今後、情報を収集しながら、社会状況、現場教員の声も踏まえて慎重に対応する。

地域おこし協力隊員の新規採用について



薄井孝彦 議員

自治会未加入者対策に町の調査と支援を

答

自治会協議会で各自治会に未加入者対策へのアンケート調査を依頼する。調査結果をもとに協議会で意見交換する。出た意見をまとめ各自治会に配布し参考にしていただく。

民間企業による社口原開発計画を白紙にした理由は

問

民間企業による社口原の開発計画は白紙になった。その理由として町は民間企業が同地の農業主体になれないことを上げた。その他の理由として、同地に施設を建てる危険性や町財政への影響も考慮したか。考慮した。

答

社口原の農業振興策の検討状況は。

問

県から同地の条件にあった作物としてブドウが適しているとの意見をいただいている。新たな担い手として若い力の導入と受け皿となる組織が必要であり関係方面と協議、検討している。

答

ブドウは農業を使うので難しい要素があるのでは。

問

一つの案である。検討していく。

答



服部久子 議員

子どもの生活実態把握の取り組みを

問

町の小、中、高校生のヤングケアラーの実態を把握し、支援につなげる取り組みを。

答

県教育委員会は9月に小学校高学年と中学生を対象にヤングケアラー調査の方針を出した。町も対応していく。

問

コロナ感染による休校で仕事を休む保護者に国の休業助成制度の周知を図り、その間の給食費は日割り計算を求める。

答

助成制度を町のホームページに掲載し保護者にメールで周知している。保育料還付は県の算定式で還付している。令和3年度の対象者はいなかった。

子どもの医療費の完全無料化を

問

県は今年度から子どもの医療費無料化を未就学児から小学3年生まで拡大した。町は軽減分でレセプト代500円を無料にし、子どもの医療費の窓口完全無料化を求めるが。

答

令和3年度実績で約160万円減額になるが、レセプト代500円を無料にすると町負担が340万円増え実施は困難である。

問

せめてレセプト代を300円に減額できないか。



農業振興に
地域おこし協力隊の力を



問 地域おこし協力隊の制度は、若い世代に池田町に住んで働きその魅力を実感してもらって、定住に結び付けるのに良いチャンスとなる。当町では人口減少が大きな課題となっているが、この制度の活用により若い世代が当町に移住するきっかけになるのではないかと。現時点では新規の採用の予定はないと聞いているが、今後の予定は。

答 国からの財源補充が有るためありがたい制度だが、町から支払う報酬は人件費に計上され、それが経常収支比率に反映されるため採用については慎重に見極める必要がある。

問 化学肥料の値上がりで、農家が大変になるので対策が必須である。地域資源である草などを使用した堆肥作りや町の重大課題である獣害対策などで協力隊員を採用できないか。

答 農業分野での協力を求めるのも重要であるが、どの分野で採用するかは今後検討したい。

問 栽培作物を試験するため地域おこし協力隊員・集落支援員（※）の採用を。※町が課題解決に適切な町民を委嘱する。国から特別交付税による財政支援がある。総合的に検討する。

答

地区防災計画作成に町の支援を

問 地区防災計画及び各家庭での避難行動計画（マイ・タイムライン）作成に町の指導と援助を。

答 説明会の開催などで支援をしていく。

想定最大規模降雨時の緊急避難場所の地区指定を、避難所運営委員会の再開を

問 想定最大規模降雨時、防災会が避難者の確認をしやすくするため町の緊急避難場所の地区指定を。

答 コロナ感染下での緊急避難場所に逃げられる人は総計で千二百人弱である。各自、町の避難場所以外の場所を検討いただきたい。親戚などと避難したい人もいるので地区指定は避けたい。

問 以前は緊急避難場所を地区指定し、避難所運営協議会で避難所運営本部長を地区の輪番で行うことを決めていた所もあった。避難所運営協議会の再開を。検討していきたい。

答



答 現状を考えると厳しい。

補聴器購入の補助を

問 加齢性難聴で社会生活が低下し、うつ病や認知症につながる。松川村は今年度から補聴器購入の補助（1／2補助、上限3万円）を実施する。当町も補助を。

答 町は現段階では考えていない。

問 せめて住民税非課税の高齢者に補助ができないか。

答 現段階では考えていない。

旧教育会館と旧池田北保育園の活用を

問 教育委員会を旧教育会館に戻し放課後の子どもの居場所や住民の集まる場所にしてはどうか。また、旧池田北保育園に町営住宅を建設し、移住推進を図れないか。

答 旧教育会館の用途は見出ししていない。旧北保育園は住宅地に向いているが、町営住宅は費用、管理の面で適当でないので建設する考えはない。



活用が求められる旧池田北保育園





公共施設オンライン予約の導入を

矢口 稔 議員

問 現在、交流センター「かえで」をはじめ公共施設の予約は「紙ファイル」で行われている。近隣自治体ではオンライン化も進んでおり、空き情報だけでも知りたいとの町民からの要望も出ている。「つむぐプロジェクト」の大学生や池田工業高校の協力を得るなど工夫をしてオンライン予約システムの導入を提案するが。

答 費用の面からすぐに導入は難しい。利用者にとって便利であり町も事務負担軽減となるため、4月より庁内DX（デジタル化推進）チームにより大いに検討が必要な項目である。

問 LINE（ライン）アプリを活用して学校の出欠席、ワクチン予約、生活情報などのサービスを行っている自治体もある。調査研究を進めるべきでは。

答 何らかのシステム導入によるデジタル改革を考えていかなければならない。LINEに限らず幅広く他町村の事例も参考に研究を進めたい。

農業の見える化による農地の保全を

問 農地を保全するのは農家だけではない。緊急的な担い手を確保するため



中学校における部活動の今後の見通しと対策について

倉科栄司 議員

問 平成29年の高瀬中学校の生徒数は256人、令和4年4月は211人である。スポーツ系部活動の数とこの5年間に活動を中止したスポーツ系の部活動はあるか。

答 スポーツ系の部活動は陸上、男女バレーボール、男女バスケットボール、女子ソフトテニス、卓球、軟式野球（合同チーム）の8競技である。中・休止した部活動はないがスポーツ系の部員はかなりの減少傾向である。

問 少子化が進行し生徒数が減少すれば団体競技の部活動は休・廃部せざるを得なくなってくる。今後のスポーツ系の部活動の見通しと対応は。

答 軟式野球は大北で合同チームが1チーム編成できる。女子バスケットも仁科台との合同チーム、男女のバレーボールも中体連大会終了後は松川との合同チームが予定されている。教育委員会としては学校との連携をしっかりと学校同士の連携のバックアップをしていく。

問 他校との連携に当たっては部活動の時間的な問題や送迎の問題など課題が多い。現状を踏まえ今後の具体的な取り組みをどう進めるか。

答 文部科学省では向こう3年間をかけて教員の働き方改革とセットにして休日も含め

松川村議会議員の

池田町議会傍聴記

6月8日、4人の松川村議会議員に傍聴いただきました。3議員から感想文を寄せていただきましたので紹介します。

【山中伯行 議員】

●池田町の一般質問では傍聴者にも読み原稿が配布されると聞き興味をもって傍聴した。質問原稿の内容と添付された資料は詳細で分かりやすい。良い勉強になった。参考にさせていただく。

【小山育一 議員】

●GIGAスクール構想、ICTを活用した学習実態など良く分からないが、状況説明、問題設定、解決方法の調査資料の多さに驚いた。自分も勉強しないといけないと思った。

【宮崎昭利 議員】

●初めて池田町役場・議場を拝見した。傍聴席が二階から見下ろす位置にあることに驚いた。理事者の方々は良く見えました。が議員の皆さんは殆ど見えず残念。

●次に驚いたことは議員一人ひとり提出される「一般質問 詳細」が克明に書かれていること。資料の添付も含め理事者により細部の答弁を求めていると思う。

●議員の質問からは地元自治体の行く末を考える一生懸命な姿が伝わってきた。



紙ファイルで予約をしている公共施設の予約簿



に、農地・農業に興味を持っていただける方にも関わっていただけるような農業の「見える化」による体制づくりは。

答 現在の農業の現状を知っていただき、農地の保全に対する関心を持っていただくことから始めていきたい。

公用車の池田町表示の徹底を

問 過去に2回質問を行い一時的に改善は見られたものの多くの公用車には表示がない。町民は町の車が来ると見守られているという気持ちを持つと思う。ロゴマークも作成したので池田町の良さをアピールする面においても速やかに表示を徹底してほしいが。

答 ご指摘のとおりでいいかと思う。いろいろまた工夫をして徹底を図って参りたい。

た部活動そのものを地域に移行している。教育委員会では今年度関係者の協議機関を設置し、またスポーツ協会にも協力依頼をしている。今後の国・県の動向を注視し検討していく。

当町におけるヤングケアラーの実態は

問 ヤングケアラーとは、家庭において大人が担う家事、家族の世話・介護などを日常的に行う18歳未満の子どもの指す。学業の遅れ、進学・就職の機会の断念、健康被害にもつながる問題であるが同時に表面化しにくい問題でもある。教育委員会では現段階でケースとして把握していることがあるか。

答 実態把握の必要は感じているが個別のケースを把握しているものは現在ない。先頃県から小・中学生を対象とした「県ヤングケアラー実態調査」を9月実施予定との通知があった。調査を実施し実態把握に努めていきたい。

問 家庭環境の面からヤングケアラーの実態が把握できる可能性を持つ機関として、民生委員の皆さんと情報を共有し対応に当たれないか。

答 子どもの心理面を最大限に配慮しながら把握に努め支援が必要との観点から、その旨を民生委員会に提案し対応可能か議論を深めていきたい。

問 職員減の折大変かと思うが庁内で横断的な組織を設置し対応する考えは。

答 問題発生があれば関係者で早急に対応している。現状の体制を充実していく。



どうする？ 議員定数

池田町議会では議員定数について3年前から検討してきましたが、去る5月27日の議員協議会で議員定数（現12）を1名削減し、11名とすることを決めました。定数減にした理由として、町の財政状況と人口減少を考慮したこと、町行財政改革推進委員会からの議会への答申（議員定数を10～11人にする）について検討することなどを考慮したことなどが上げられます。

コロナ禍ですので7月中旬に町民の皆さんのご意見をアンケート調査で伺い最終決定をし、9月定例議会での条例化を予定しています。



町民の皆さんに聞く

— 第23回 —



滝沢 帯刀益夫さん

経歴

- 東北大学名誉教授 78歳
- 池田町広津出身
- 東大薬学部卒業後、がん研究所に勤務
- 東大薬学部助教授、東北大学加齢医学研究所教授・所長などを歴任
- 退職後池田町在住、日本工芸美術家協会会員
- 工芸美術展9回入選、日展2回入選

編集委員が町民の皆さまにお聞きし、生の声を届けます。

池田町に転居して

妻と私は東京と仙台で大学に勤めていて長いことお互い単身生活をしていました。退職後は田舎でゆっくりと暮らしたいと思い池田町に移り住むことにした。残念なことに妻はガンを患い10年前に亡くなり、私の独居老人としての生活が始まった。

私は仙台で趣味として陶芸を始めていて池田町でも科学書の執筆と共に陶芸を楽しんできている。土と接してものを作るという楽しみは、独居老人生活であつても生きる意欲を高めてくれ幸を感じる事ができる。

きる。

工芸を通して大町市の日展会員、高橋貞雄先生とも深く付き合い合うようになり現代工芸美術家協会の会員になった。上野の工芸美術展に九回入選し、一昨年から日展にも二回続けて入選することができた皆さんの工芸仲間との交流も増えている。

こうした美術展とは別に北アルプス展望美術館（以後、池田町立美術館と略称）で開催される秋のクラフト展に毎年参加して見てくれる人たちとの交流も楽しみの一つになっている。

池田町立美術館存続の一提案

最近、池田町の財政問題を契機として池田町立美術館の運営の縮小が提案されているのはたいへん残念なことである。新型コロナウィルス感染で明らかになったように日本の文化芸術行政は世界的にみてもきわめて貧弱であり、地方の美術館の管理運営にも大きな影響を与えている。このことは池田町だけでなく全国的に公的美術館の大きな課題となっている。

池田町立美術館は町の財政規模からは大きすぎると言う見方もあるが、比較的大きな展示会場を持つこ

の規模の施設は大町市を含む大北地域では唯一であり、大北地域の美術振興のために極めて利用価値が高いものと思われる。松本市や安曇野市などは地域の財団を作り市内のいくつかの美術館を運営している。池田町のような小さい町が美術館の運営が難しいとすれば、大北地域の市町村で、共同で財団を作り広域利用可能な運営体制を作るということも一つの方法だと考える。実際、大北地域にはたくさんの方々が住んでおり、池田町以外の芸術家からもこの美術館の利用を望む声がたくさんある。そこで一つの提案として、池田町立美術館の大北地域での広域美術館という形で運営方式を考えてみてはどうだろうか。今のところ全国でも複数の市町村で美術館広域的運営を行っている方式はないようなので、もし実現すれば、

全国に先駆けた模範例になると思われる。

心豊かな池田町に

日本はかつての高度成長期から少子高齢化社会へと変化し、右肩上がりの繁栄を目指す経済立国から国民一人ひとりの豊かさを指標とする社会へと変化が迫られている。しかし、現在の日本は経済格差も広がり特に若い世代の豊かさが失われてしまっている。

池田町は豊かな自然を享受できる恵まれた地域であるがさらに町民が芸術文化を身近なものとして交流を図り、心豊かな人生を送ることができるよう望ましい。そのためには池田町立美術館を周辺の自治体の協力を得て利用価値を高めていくことを望みたい。これはまた、町の行政のあり方を財政主体から町民の生活の豊かさを創造してゆくという変革を迫ることにもつながるだろう。



編集後記

6月としては観測史上初めて40度を超える最高気温が記録された今年の夏は梅雨明けも異例の早さでした。電力需要の高まりが予想され消費電力の抑制を呼びかけるお知らせがテレビ・ラジオから流れ新聞に告知広告が掲載されました。

ロシアのウクライナ侵攻から5か月が経ちましたが和平の糸口さえ見つけられず厳しい戦況は長期化が予想され、世界情勢の悪化や急激な円安により生活用品を始めとした物価上昇に歯止めがかからず生活に厳しさが増しています。

そんな中、ここ数か月池田・松川地区で新型コロナウイルスの感染者が多数報告された状況がここに来て、感染者が減少してきたのは明るい兆しでしょうか。まだまだ安心はできませんが今年の秋は実りの秋とともに、コロナウィルス感染防止のため中止されてきたお祭りができる秋になることを期待したいものです。

議会報編集特別委員会
委員長 薄井 孝彦
副委員長 大厩 美秋
委員 横澤 はま
倉科 栄司
矢口 新平

次回議会だより発行は令和4年10月26日(水)を予定しています。ぜひ、御覧ください。